

## 特集2 災害時の5つの心得

～おなかの中の赤ちゃんを守るために～

もし妊娠中の今、災害が起きたら？考えただけで不安になりますよね。妊娠すると誰でも普段と同じようには動けません。そして、妊娠中は自分が思っている以上に気持ちも体力も消耗します。お腹の赤ちゃんを守るために今できることを準備しておきましょう。

### 心得1

#### もしもの時の連絡方法決まっていますか？

万一のとき、家族全員が一緒にいられるとは限りません。いつ起こるか分からない災害に備え、災害時の行動方針を共有しておきましょう。

##### ●「災害時の連絡方法」、話し合っていますか？

電話ができない可能性を想定し「災害用伝言ダイヤル1717」、「災害用伝言板」、ソーシャルメディアなど複数の災害用連絡手段を調べ、家族に適した連絡方法を話し合っておきましょう。

##### ● 子どものお迎えルールは決まっていますか？

子どもの学校や幼稚園・保育園などの災害時のガイドラインを確認した上で、家族内での基本対応ルールを決めておきましょう。

##### ● いざというときに必要な連絡先はまとまっていますか？

緊急時に連絡をとりたい方の連絡先を母子手帳(P.1)に記入し、コピーして家族全員が持ち歩きましょう。

### 心得2

#### 覚えておこう！「その瞬間」の5つの行動

一瞬の判断が生死を分ける災害時。真っ先に自分の身を守り、赤ちゃんの命を守るために遠慮せずまわりに助けを求めましょう。

##### (1) 急に立ち上がるのは危険

妊娠中は体形の変化で、転倒する危険も。立っている場合は手すりなどにしがみつくと、落ち着いた行動を心がけて。

##### (2) とにかく「頭を守る」

頭部の損傷は即、命の危険につながります。手近にあるもので頭を覆い、落下物や倒壊の可能性がある危険な建物から離れましょう。

##### (3) 足下に気をつけて

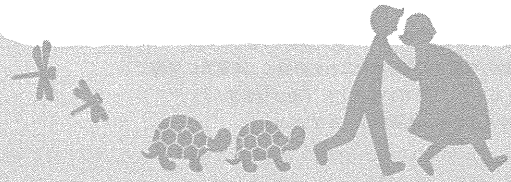
足元のケガは避難の大きな妨げになります。素足での行動は絶対に避け、靴が身近にできれば厚底の靴下などを履いておきましょう。

##### (4) 逃げ道の確保

閉じ込められる可能性があるため、エレベーターは絶対に使わない。非常口や階段付近はドミノ倒しなどの危険があるので、入には巻き込まれず、安全な場所で様子を見ましょう。

##### (5) 応援の要請

万一、がれきに閉じ込められた場合は、音の出るものを鳴らしましょう。携帯電話があれば、ライトを照らすのも一つの手です。



### 心得3

#### いざという時の「備え」は十分ですか？

過去の地震では、電気・水道・ガス等のライフラインが止まり、長期間不便な生活を強いられることが何度も発生しています。交通・情報網も断られるため、最初の3日間は物資も入手が困難になります。家族の状況に合わせた対策をとることが大切です。

##### ● 非常持ち出し用バックについて

妊娠中や産後の場合、1人で持てる重さは5kgが目安。リュックなどにまとめ、準備ができたら背負ってみましょう。いざというとき持ち出せるように、玄関などの避難動線にストックします。

##### ● 赤ちゃんのためのアイテム

###### \*1 母子手帳

避難の際は母子健康手帳を必ず携帯して。写真に撮って、ウェブや携帯上に保存しておく、手元がない時に役立ちます。(母子手帳アプリp→)

###### \*2 飲料水(軟水：ミルク用)

乳幼児は腎機能が未熟。市販の硬度の高い水は消化不良を引き起こす恐れが。ミルクの調乳は「軟水」で。

###### \*3 非常食

つわりが酷い時でも食べられるものを用意しましょう。

###### \*4 粉ミルクほ乳瓶

被災のショックで母乳が出にくくなる場合があります。

###### \*5 生理用品

突然の破水、出産後に備えて大きめのものも用意。妊娠中はトイレが近い上、ストレスで尿漏れも起きることも。

###### \*6 妊娠パッチ

妊娠初期の場合は、外見からだけでは妊娠がわかりません。「おなかに赤ちゃんがいます」のパッチを常に持ち歩きましょう。

###### \*7 オムツ

災害時は下痢など体調を崩す子が多いため、多めに用意しましょう。

■非常用バックにいれておきたいアイテム(準備済みのものに○をつけましょう)

*1 母子手帳	*2 飲料水 軟水：ミルク用	*3 非常食	*4 粉ミルク・ほ乳瓶	*5 生理用品
*6 妊娠パッチ	*7 オムツ	*8 乾電池	*9 携帯ラジオ	*10 ライター・マッチ
*11 携帯電話充電器	*12 下着	*13 タオル	*14 毛布	*15 マスク
*16 防寒具	*17 トイレ用ペーパー	*18 錠剤やカプセル などサプリ	*19 ウェットティッシュ	*20 使い捨てカイロ
*21 緊急連絡先 リスト	*22 簡易トイレ	*23 哺乳瓶用消毒薬	*24 包帯	*25 笛
*26 懐中電灯	*27 ペンとメモ用紙	*28 医薬品・薬- 免許証のコピー	*29 ゴミ袋	*30 現金・小銭
*31 靴下	*32 ナイフ・はさみ	*33 家や車の鍵	*34 軍手	*35 ガムテープ(布)

#### 心得4

### 妊娠を機に、お宅の耐震性をチェック

阪神・淡路大震災の死亡原因1位は「家具や住宅の倒壊による圧死」。家具の転倒や物の落下、破片はケガや逃げ遅れの原因にもなります。この機会に、自宅の耐震対策を見直しましょう。

#### ● 自宅の耐震レベルを確認していますか？

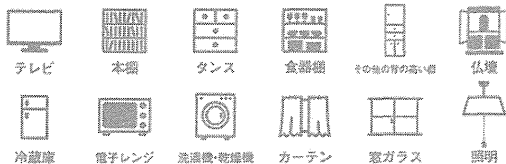
柱や梁(はり)といった構造部分だけではなく、屋根、ブロック塀、ベランダなども倒壊すれば命の危険性があります。不安がある場合は、お住まいの自治体に問い合わせ、耐震診断を受けましょう。

#### ● 地震保険に加入していますか？

一般家庭の地震保険の加入率は、火災保険に比べ低いのが現状です。ご自宅の保険の内容を、いま一度確認してみましょう。

#### ● 転倒の危険がある家具・家電類は固定されていますか？

モノは落ちるのではなく、飛んできます。テレビ、食器類も凶器になるので要注意。家具は、万一倒れてもダメージが少なく、かつ出入口を塞がない配置にするなど、以下のアイテムの場所や耐震性・耐火性をチェックしてみましょう。



#### 心得5

### あなたの街の避難場所は？

大災害発生時にはどこに避難するのかを確認し、家族で共有しておきましょう。また、いつもの道にも非常時には思わぬ危険が潜んでいる可能性も。時間があるときに歩いて確認しておきましょう。

#### ● 避難場所や緊急時の待ち合わせ場所を確認しましょう。

自宅近くの避難場所が分からない人は、自治体に確認してみましょう。また、外出先で地震にあったなどの緊急時であれば、近くの学校や体育館、病院、広い駐車場や公園などへ避難するといいでしょう。いざという時に家族とはぐれないように、震災時での待ち合わせ場所などを確認しておくのも忘れないで。

#### ● あなたを守ってくれる地域の防災設備を知っていますか？

非常用道具や備蓄品を備えた倉庫、給水・消火設備などが、ほとんどの場合、お住まいの近くに配置されているはずですが、あわせて確認しましょう。

#### ● 近所の「危険な場所、地点」を知っていますか？

お住まいの市区町村の防災課に問い合わせ、あなたの地域の地理的危険度分かる地図(ハザードマップ)を手に入れましょう。予想される災害の種類(地震・津波・洪水・土砂など)と予想被害区域を確認できます。

#### ● 地域とのつながりはとても大切

子どもが生まれる前はご近所づきあいの必要性はなかなか感じられないものですが、実際に被災した方は「防災対策として近所づきあいや日頃の助け合いが大切」と言う意見が大変多いのです。電話やネットが通じない場合、知り合いから得る情報は貴重です。

## 初期対応問診票

管理 ID: 

妊産婦救護所 日時: 月 日 時 分

フリガナ 氏名	様	生年月日 年齢	年 月 日 歳
妊娠中の方			
妊娠週数	妊娠 週 日	分娩予定日	年 月 日
産後の方			
分娩日	年 月 日	今回の分娩	自然・帝王切開
産後日数	産後 カ月 日	既往妊娠・出産	回
緊急連絡先			

\* 受付で渡したチェックリストと照合しながら記入

※当てはまるものがあれば、○で囲んでください。

主訴	腹部痛み (部位: , いつから: , 性状: )
※妊婦で 1つでも あれば → 赤	腹緊・陣痛 (いつから: , 間歇: , 発作: ) 破水 (量:少・中・多, いつから: , 性状: ) 性器出血 (量:少・中・多, いつから: , 性状: ) 胎動消失・減少 (いつから: , 10回カウント: 分)

\* 分娩開始兆候があれば、助産録への記述開始。搬送・緊急分娩介助に備える

呼吸	10~29 回/分	回/分	→ 赤
脈拍	50~119 回/分	回/分・脈拍不触	→ 赤
血圧	90~199 mmHg	/ mmHg	→ 赤
意識	従命反応あり	意識障害あり (JCS 2点以上)	→ 赤
その他の ショックの徴候	なし	顔面蒼白・冷汗・皮膚冷感 チアノーゼ・震え・乏尿	
発熱(37℃以上) 低体温(35℃以下)	36~37 ℃	℃	
歩行	可能	不可能	

感染徴候	発熱 ( ℃) ・ 咳 ・ 鼻水 ・ 吐き気 ・ 嘔吐 ・ 下痢 発熱と同時期に出た湿疹	→ 隔離
------	---	------

その他の 自覚症状	
--------------	--

現病歴	薬 ( ) 持参あり・なし
既往歴	前回帝王切開 あり・なし

外傷	部位	状態	対応
頭部			
胸部・背部			
腹部・腰部			
上肢			
下肢			
その他			

アレルギー	食物 ( ) 薬 ( ) その他 ( )
-------	----------------------------

対応 サマリー	経過観察 救急処置をした:( ) 搬送を依頼した: 時 分, 搬送先:( )病院 依頼したい内容:
------------	--

記入者	氏名: 職種: 連絡先:
-----	-----------------



避難所等母子保健 標準アセスメント票

※事前把握項目	避難所名 (施設名)			市町村名	
	避難者数	人 ( 月 日現在)		避難所 責任者氏名	
	評価年月日	西暦 20 年 月 日		連絡先 (電話等)	
	評価時在所 避難者数	人 (AM/PM 時現在)		情報収集法	※ 実施した方法をすべてチェック <input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> 責任者等からの聞き取り (役職・氏名: ) <input type="checkbox"/> 避難者からの聞き取り ( 人程度) <input type="checkbox"/> 現場の観察 <input type="checkbox"/> 支援活動等を通じて把握 <input type="checkbox"/> その他 ( )
評価者氏名 職種	氏名: 所属: 職種: 1 保健師 2 助産師 3 自治体職員 4 医師 5 その他 ( )				
項目	簡易評価	確認項目 (※確認できれば数値や具体的内容を記載)			特記事項
※事前把握項目	(1) 特に 配慮が必要な対象者	◎・○・△・×・-	a 乳幼児 (就学前)	(約 人 or%), 不明	
	b 妊婦		(約 人 or%), 不明		
	c 高齢者 (75 歳以上)		(約 人 or%), 不明		
	d 障がい児者・要介護者		(約 人 or%), 不明		
	e 有病者		(約 人 or%), 不明		
	f 外国人		(約 人 or%), 不明		
(2) 産科ニーズ	(◎・○・△・×・-)	a 37 週以降の満期妊婦	( 人), 不明 (具体的に: )		
		b ハイリスク妊婦	( 人), 不明 (具体的に: )		
(3) 母子必需品 等の確保	(◎・○・△・×・-)	a-1 オムツ (新生児用)	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		a-2 オムツ (乳幼児用)	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		b おしりふき	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		c 湯沸し	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		d 洗浄・滅菌器具	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		e ミルク	1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明		
		f その他 ( )	1 充足, 2 不足 (約 人分),		
(4) 環境整備	(◎・○・△・×・-)	a 授乳室	1 ある, 2 ない, 3 不明		
		b 保温、保湿	1 している, 2 ほとんどしていない, 3 不明		
		c 乳幼児の介助サポート	1 している, 2 ほとんどしていない, 3 不明		
		d 安静・休養がとれる部屋	1 ある, 2 ない, 3 不明		
(5) 体調の 訴え・異常	(◎・○・△・×・-)	a 疾患がある者	1 いない様子, 2 いる (約 人)		
		b 健康障害がある者 (つわり、腰痛等による)	1 いない様子, 2 いる (約 人)		
		c 他の問題*がある者	1 いない様子, 2 いる (約 人)		
		* (具体的に: )			
(6) 歯科保健医療 の確保	(◎・○・△・×・-)	a 近隣の受診可能な産科診療所・仮設診療所	1 あり, 2 ない, 3 不明		
		b 巡回産科チームの訪問	1 あり(定期的), 2 あり(不定期), 3 ない, 4 不明		
その他の問題	具体的に:				

※ 書ききれない情報や関連情報は、特記事項欄に記入してください。  
 ※ 簡易評価の定義：◎良好・問題なし、○まあ良好・まあ問題なし、△やや問題あり、×大いに問題あり、-：不明

## 災害時避難所等母子保健アセスメント票の活用について

本アセスメント票は、避難生活者の健康維持に影響する母子保健問題を概括的に把握し、現地災害対策本部(災害公衆衛生活動の歯科部門)に伝達して支援調整に役立てる全国標準版として「災害時公衆衛生歯科機能を考える会」で提案された情報収集ツールを模範に、厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「妊産婦・乳幼児を中心とした災害時要援護者の福祉避難所運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究(研究代表者:国立保健医療科学院 吉田穂波)」研究班で作成したものです。

産科や母子保健の専門職だけでなく、避難所の運営スタッフや支援者が用いて、本票の確認項目をふまえて評価することで、見逃しがちな母子保健の課題が浮かび上がるようになっていきます。

### <<本票を用いた情報収集(アセスメント)にあたって注意すべき点>>

#### ● 事前の心構え ●

- 1 対象となる避難所等の状況を十分に配慮して手短かに情報収集を実施すること。とくに、避難者同士が助けあって運営している避難所の特性を踏まえて、余分な負担をかけないように臨むこと。
- 2 情報収集の実施時期は、基本的に、発災 72 時間後で、避難生活の長期化が見込まれる場合とする。
- 3 避難所外の者が用いる場合は、できる限り現地対策本部等からの指示調整に従い、避難所の事前情報を得た上で、本票を用いた情報収集を行うこと。

#### ● 実施の手順 ●

- 1 避難所の責任者(もしくは健康管理担当者等)に身分証などで自己紹介した上で、その目的(支援活動に先んずる必要性の把握)を告げ、責任者の同意・協力を得て実施すること。
- 2 情報収集は、各避難所等の状況に見合った方法(聞き取り・観察など)を選び、避難者及び運営スタッフに負担を与えないよう、短時間で概括的に把握して記載すること。
- 3 最後に、責任者(もしくは健康管理担当者等)に、情報収集の終了と結果概要を簡略に報告(可能な限り本票の写しを手渡ししながら再確認)し、この結果を必要な支援につなげる旨と継続的に情報収集に来ることの理解を得ておく(同時に、避難所向けの歯科口腔保健管理用リーフ等も手渡してもよい)。
- 4 本票の不明な情報は「記載もれ」と区別するため、必ず「不明」等と明記して記載し、現地対策本部の歯科部門(保健福祉事務所もしくは歯科医師会)に届けること。

(注)本アセスメント票の「避難所等」とは、被災下で宿泊・食事等の生活をする収容場所全般を想定しています。したがって、高齢者・障害者・病弱者等の通常の生活にも困難な要援護者等のための福祉避難所、更に広義には被災下での福祉施設から自宅等も含んだ収容施設が該当します。

妊

①

②

③

待機所

部屋

A

B

C

D

氏名	出産予定日	年齢	住所	連絡先
同伴乳幼児 無・有	名前		名前	備考
		才		才
安否情報確認のための情報開示(住所・氏名・転出先等)				同意する・同意しない

\* 避難所記入欄

受付No.	入所月日	入所場所	移動	転出月日	転出先	備考

母子

①

②

③

待機所

部屋

A

D

母親氏名	子供の名前・年齢	備考
	(才) (才)	
住所 連絡先		
安否情報確認のための情報開示(住所・氏名・転出先等)		同意する・同意しない

\* 避難所記入欄

受付No.	入所月日	入所場所	移動	転出月日	転出先	備考

妊
予 月 日
室

妊
予 月 日
室



母		
乳	_____	カ月
	室	

妊		
	予	月 日
幼	_____	才
	室	

母		
乳	_____	カ月
	室	

母		
乳	_____	カ月
幼	_____	才
	室	

母子用名札

母	タナカ サチエ	
乳	ユウト	6ヶ月
	D 室	

妊婦用名札

妊	タカハシ アキコ	
	予	3月15日
	B 室	

見本

母子・兄弟用名札

母	ササキ ミカ	
乳	ショウ	2 カ月
幼	モエ	3 才
	A 室	

妊婦母子用名札

妊	サイトウ ミチコ	
	予	6月3日
幼	ナナコ	2 才
	C 室	



## 部屋割り表 (妊婦)

受付No. \_\_\_\_\_

1

入所された方の治療処置や対応を効率的に行うための質問です

入所者票と名札にも記入し、受付にお持ちください

乳幼児同伴の場合は部屋割り表 1 と 1-②、母子用名札2枚に記入してください

( 月 日 時 分)

妊婦氏名

① どこかにケガをしていますか？

いいえ

はい

それはどこですか？

② 発熱、咳、鼻水、吐き気や嘔吐(つわりを除く)、下痢などの症状がありますか？

いいえ

はい

○をつけてください

発熱            咳            鼻水

吐き気        嘔吐        下痢

発熱と同時期に出た湿疹

③ 陣痛様、生理痛様のお腹の痛みや破水、出血などがありますか？

いいえ

はい

○をつけてください

痛み    破水    出血    胎動消失

その他気になること

①②③ が全て  いいえ → B 室

①②③ が全て  いいえ で乳幼児同伴の方 → A 室

①、③ に  はい    ② は  いいえ → 待機所 又は C 室

② に  はい → D 室

\* 入所後に体調が変わった場合はナースステーションにおいでください

## 情報書(妊婦)

受付No. \_\_\_\_\_

室

2

妊婦氏名	ふりがな	今回の出産 初めて 2回目 ( )回目	
生年月日	年 月 日 才	血液型 型 RH( )	
出産予定日	年 月 日	現在の妊娠週数 週 日	
おなかの赤ちゃんの数	ひとり 双子 他( )	母子手帳 (持参・紛失・自宅)	
通院中の医療機関		保険証 (持参・紛失・自宅)	
出産予定の医療機関		帝王切開予定	無・有
最後の妊婦健診日	年 月 日 異常 無・有( )		
特に注意するように 言われていること			
現在の身長・体重	身長 cm	体重 g	妊娠前の体重 g
今までにかかった病気	無・有( )		
アレルギー	無・有( )		
服用中の薬	無・有( )持参 無・有		
家族の所在 連絡先 ( ) * 家族全員を記入 * 一緒に入所する お子さんに丸印	夫	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 今困っていること			
(備考)			

## リスク表(妊婦)

3

\* 妊婦さんの安全と万一の緊急対応に必要な質問です。受付No. \_\_\_\_\_

該当する欄に○をつけてください。

妊婦氏名 \_\_\_\_\_

## A. 妊娠中の検査結果についてお答えください

(検査項目)	(正常)	(不明)	(経過観察中)	(治療中)	備考
B型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
C型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
HIV	なし	不明	あり・治療無	治療中	
梅毒	なし	不明	あり・治療無	治療中	
淋病	なし	不明	あり・治療無	治療中	
クラミジア	なし	不明	あり・治療無	治療中	
ヘルペス	なし	不明	あり・治療無	治療中	
B群溶血連鎖球菌	なし	不明	あり・治療無	服薬中	
HTLV	なし	不明	あり・治療無		
風疹抗体	32倍以上	不明	16倍以下		
貧血	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
甲状腺機能異常	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	亢進症・低下症
糖尿病	なし	不明	あり・服薬無	インスリン治療中	
気管支喘息	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
てんかん	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
慢性腎臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
精神疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
心臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
血液疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
子宮筋腫	なし	不明	様子観察中	帝王切開予定	
高血圧	なし	不明	時々高めになる	服薬中	
むくみ	なし	不明	時々ある	いつもある	
尿蛋白	なし	不明	時々陽性になる	いつも陽性	
胎盤位置異常	なし	不明	低置胎盤	前置胎盤	
羊水異常	なし	不明	様子観察中	精密検査予定	
血液型不適合	なし	不明	あり・経過観察中	処置・手術予定	
胎児の位置異常	なし	不明	不明	帝王切開予定	骨盤位・横位・他

\* 記憶がはっきりしない項目は「不明」の欄に○をつけておいてください。

## B. 出産経験のある方で、下記に当てはまることはありませんか？

妊娠高血圧症候群	出産時・産後の出血多量(500ml以上)	
早産( 週 )	死産	新生児死亡
鉗子・吸引分娩	妊娠中・産後のうつ症状	

# 部屋割り表(母親と乳児)

受付No. \_\_\_\_\_

1

入所された方の治療処置や対応を効率的に行うための質問です  
 入所者票と名札(母子同じ物2枚)にも記入し、受付にお持ちください  
 上の兄弟同伴ならその子の分をそれぞれ用紙 1-②と名札にも記入してください

( 月 日 時 分)

母親氏名	
乳児氏名	

① どこかにケガをしていますか？

母親

いいえ

はい

それはどこですか？

( )

乳児

いい

はい

( )

② 発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状がありますか？

母親

いい

はい

○をつけてください

発熱            咳            鼻水  
 吐き気        嘔吐        下痢  
 発熱と同時期に出た湿疹  
 その他の気になる症状

乳児

いい

はい

発熱            咳            鼻水  
 吐き気        嘔吐        下痢  
 発熱と同時期に出た湿疹  
 その他の気になる症状

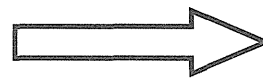
③ 発熱・乳房痛・しこりなどの乳腺炎様の症状ありますか？

いいえ

はい

② に **はい**

がついている方



D 室

それ以外の方



A 室

けがの治療は医師が到着次第順次呼びしますので部屋でお待ちください

# 部屋割り表 (きょうだい)

受付No. \_\_\_\_\_

1-②

入所されたお子さんの治療処置や対応を効率的に行うための質問です  
 記入したら、親子の用紙を一緒にして受付にお持ちください。  
 お母さんと同じ名札でお子さんの分を記入してください。

( 月 日 時 分)

母親氏名	
児の氏名	

① どこかにケガをしていますか？

いい

はい

それはどこですか？

\_\_\_\_\_

② 発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状がありますか？

いいえ

はい

○をつけてください

発熱            咳            鼻水  
 吐き気        嘔吐        下痢  
 発熱と同時期に出た湿疹  
 その他の気になる症状

母子のどちらかでも

はい

がついている



D 室

それ以外のお子様はお母さんと共に **A** 室 でお待ちください

けがの治療は、医師が到着次第順次呼びしますので部屋でお待ちください

## 情報書 (母親)

受付No. \_\_\_\_\_ 室

2

母親氏名	ふりがな	今回の出産 初めて 2回目 ( )回目
生年月日	年 月 日 才	血液型 型 RH( )
今回の出産年月日	年 月 日	出産週数 週 日
今回の赤ちゃんの数	ひとり 双子 他( )	(普通・鉗子・吸引)分娩・帝王切開
かかりつけの医療機関		保険証 (持参・紛失・自宅)
アレルギー	無・有( )	
今までにかかった病気	無・有( )	
治療中の病気	無・有( )	
服用中の薬	無・有( ) 持参 無・有	
家族の所在  連絡先  ( ) * 家族全員を記入 * 一緒に入所する お子さんに丸印	夫	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	( ) 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( ) 避難所 他( ) 不明
* 今困っていること		
(備考)		

## 情報書(乳幼児)

受付No. \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 室

3

母親氏名		第( )子
子供の氏名	ふりがな	血液型 型 RH( )
出生年月日	年 月 日	出生体重 g
最近の計測	身長 cm 体重 g	母子手帳 (持参・紛失・自宅)
子のかかりつけの医療機関		保険証 (持参・紛失・自宅)
妊娠中から出生後のお子さんの異常	無・有 ( )	
アレルギー	無・有 ( ) 除去食 (している・していない)	
今までにかかった病気	突発性発疹 はしか 風疹 水ぼうそう おたふくかぜ 感染性胃腸炎 手足口病 伝染性赤班(リンゴ病) その他	
治療中の病気	無・有 ( )	
服用中の薬	無・有 ( ) 持参 無・有	
医師から注意されていること	無・有 ( )	
予防接種歴	<input type="checkbox"/> インフルエンザ b型(ヒブ) 回	<input type="checkbox"/> 肺炎球菌 回
	<input type="checkbox"/> BCG	<input type="checkbox"/> ポリオ(生) 回 (不活化) 回
	<input type="checkbox"/> 3種混合(DPT) 回	<input type="checkbox"/> 4種混合(DPT+ポリオ) 回
	<input type="checkbox"/> ロタウィルス 回	<input type="checkbox"/> はしか風疹混合 回
	<input type="checkbox"/> みずぼうそう 回	<input type="checkbox"/> おたふくかぜ 回
	<input type="checkbox"/> 日本脳炎 回	<input type="checkbox"/> B型肝炎 回
	<input type="checkbox"/> その他	
主な栄養法	母乳 人工乳 離乳食 幼児食 その他( )	
今、お子さんのことで困っていること 無・有 ( )		
備考		



## リスク表(母親)

受付No. \_\_\_\_\_ 室

4

\* 万一の緊急対応に必要な質問です。該当する欄に○をつけてください。

母親の氏名

今回の妊娠中の検査結果と産後のことについてについてお答えください

(検査項目)	(正常)	(不明)	(経過観察中)	(治療中)	備考
B型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
C型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
HIV	なし	不明	あり・治療無	治療中	
梅毒	なし	不明	あり・治療無	治療中	
淋病	なし	不明	あり・治療無	治療中	
ヘルペス	なし	不明	あり・治療無	治療中	
HTLV	なし	不明	あり	母乳哺育予定	無・( )か月まで
風疹抗体	32倍以上	不明	16倍以下	ワクチン接種	未・済
貧血	なし	不明	あり・治療無	服薬中	服薬終了
甲状腺機能異常	なし	不明	あり・治療無	服薬中	亢進症・低下症
糖尿病	なし	不明	あり・服薬無	インスリン治療中	
気管支喘息	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
てんかん	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
慢性腎臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
精神疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
心臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
血液疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
妊娠高血圧症候群	なし	不明	あり・治療無	服薬中	
むくみ	なし	不明	時々ある	いつもある	
尿蛋白	なし	不明	時々陽性	いつも陽性	
妊娠中 産後のうつ症状	なし	不明	あり・治療無	通院・服薬中	

\* 記憶がはっきりしないものは「不明」の欄に○をつけておいてください。

## II. 分担研究報告書

## 妊産婦救護研修の開発、人材育成に関する検討

研究分担者 新井 隆成 山梨大学医学部

### 研究要旨

#### 研究目的：

・災害時妊産婦支援の必要性と適切な支援のあり方を明確にし、支援のために必要な災害医療プロバイダーの研修内容について検討する。  
・全国から参加者を募集しておこなった本研究班の災害時妊産婦救護研修におけるアンケート結果を踏まえて、災害時妊産婦支援研修の内容を再検討し、本研究の今後へ向けた課題を明確にする。

#### 研究方法：

NPO 法人周生期医療支援機構（本部石川県）が全国で開催している ALSO（Advanced Life Support in Obstetrics）プロバイダーコースまたは BLSO（Basic Life Support in Obstetrics）プロバイダーコース受講済み者（ALSO 会員）へ Web 上で、災害時妊産婦支援について事前アンケート調査を行った。また、2014 年 7 月 19 日に国立保健科学院で開催された本研究の災害時妊産婦救護研修会への参加者をアンケート回答者から募り、25 名が研修会に参加した。受講希望者には事前アンケートおよび研修会受講後のアンケート調査を行った。

#### 研究結果：

<災害時妊産婦救護に関する ALSO 会員への事前アンケート結果>回答数 91 名

産科のシミュレーション教育に参加している産科プロバイダーには、災害時妊産婦支援活動に興味を持つ者が少なからず存在し、災害時妊産婦救護について学びたいと考えていることが示唆された。

<災害時妊産婦救護研修参加者事後アンケート結果>回答数 36 名（受講者 25 名、講師 11 名）

災害時妊産婦支援活動に興味を持つ産科プロバイダーを対象にした災害時妊産婦救護研修会に対して、受講者の高い満足度が得られた。研修後に自施設や地域に対して災害時妊産婦支援活動を呼びかけたいとする意見や継続参加を希望する意見が得られた。研修内容については、総論の割合が多すぎる、研修時間が短すぎるとの意見が得られた。

#### 結論：

災害時の妊産婦支援には、病院における「妊産婦救護」だけでなく、病院外の「妊産婦援護」とそれらの間の連携が必要である。このことを踏まえた災害時妊産婦救護研修会は、産科プロバイダーの災害医療への関わりに対する意識を高める効果が期待できることが示唆された。研修時間の短さと、より具体的な災害時妊産婦救護研修内容の構築が課題となった。

### 研究協力者

国立保健医療科学院

吉田穂波

### A. 研究目的

・災害時妊産婦支援の必要性と適切な支援のあり方を明確にし、支援のために必要な災害医療プロバイダーの研修内容について検討する。  
・全国から参加者を募集しておこなった本研究

班の災害時妊産婦救護研修におけるアンケート結果を踏まえて、災害時妊産婦支援研修の内容を再検討し、本研究の今後へ向けた課題を明確にする。

## B. 研究方法

NPO 法人周生期医療支援機構（本部石川県）が全国で開催している ALSO（Advanced Life Support in Obstetrics）プロバイダーコースまたはBLSO（Basic Life Support in Obstetrics）プロバイダーコース受講済み者（ALSO 会員）へ Web 上で、災害時妊産婦支援について事前アンケート調査を行った。また、2014 年 7 月 19 日に国立保健科学院で開催された本研究の災害時妊産婦救護研修会への参加者をアンケート回答者から募り、25 名が研修会に参加した。受講希望者には事前アンケートおよび研修会受講後のアンケート調査を行った。

※ALSO 会員数は、全国に約 2,500 名、今回の調査は、ALSO 会員のみがアクセスできる ALSO 会員メンバーサイトを使ってアンケートを試みた。解答は、無記名でメールによって行われ、本研究とは無関係の NPO 法人周生期医療支援機構の担当者が集計をおこなった。ALSO プロバイダーコースは、産科救急のシミュレーションコースで、全国で 3881 名が修了した（2014 年 12 月 31 日時点）。参加者の内訳は、産婦人科医、助産師、プライマリケア医、救急医、初期臨床研修医、医学生、その他である。BLSO プロバイダーコースは、産科救急の基礎コースで、全国で 981 名が修了した（2014 年 12 月 31 日時点）。参加者の内訳は、救急救命士、プライマリケア医、救急医、初期臨床研修医、医学生、助産師、その他である。ALSO、BLSO は通常平時の病院前、病院後の産科的傷病者の救護体制強化による産科医療の安全向上を目的とした教育コースであり、世界 63 カ国に普及し、15 万人以上が修了している。

## C. 調査結果

<災害時妊産婦救護に関する ALSO 会員へのアンケート結果>

回答数 91 名

・災害時妊産婦救護支援対策へ向けた活動をもっと行なってほしい

はい 81 (89%) いいえ 0 (0%) どちら

とも言えない 10 (10%)

・災害対策支援活動に興味がある

はい 88 (97%) いいえ 0 (0%) どちら

とも言えない 3 (3%)

・災害時妊産婦救護研修に興味がある

はい 89 (98%) いいえ 0 (0%) どちら

とも言えない 2 (2%)

・BLSO への参加経験がある

はい 41 (45%) いいえ 49 (54%) 無回

答 1 (1%)

・石巻赤十字 BLSO、または気仙沼市立病院 BLSO に参加経験がある

はい 10 (11%) いいえ 81 (89%) 無回

答 1 (1%)

・ALSO 認定インストラクターまたはインストラクターキャンディデイトである

はい 29 (32%) いいえ 60 (66%) 無回

答 2 (2%)

・今回は研修会に参加できないが、機会があれば次回参加したい

はい 57 (63%) いいえ 4 (4%) どちら

とも言えない 11 (22%)

<災害時妊産婦救護研修参加者事前アンケート結果>

回答数 24 名

・男性：女性 =10 人：14 人（産婦人科 12 人、助産師 10 人、救急医 1 人、救命救急士 1 人、外科医 1 名、麻酔 1 名）

・災害訓練、避難訓練、防災訓練参加経験者 12 名

・DMAT 隊員 0 名

・日赤隊員 0 名

・災害支援、人道支援メンバー 2 名

・東日本大震災被災者 7 名

・東日本大震災支援活動参加者 5 名

・東日本大震災以外の大災害被災者 3 名

・東日本震災以外の大災害支援活動参加者 6 名

・妊産婦の被災者救護活動経験者（被災地）5 名

・妊産婦の被災者救護活動経験者（非被災地）8 名

<災害時妊産婦救護研修参加者事後アンケート結果>

回答数 36 名 (受講者 25 名、講師 11 名)

・内容の評価 (5 段階回答: 5 点最高、1 点最低。括弧内は%)

5 点 20 名 (55.6) 4 点 11 名 (30.6) 3 点 5 名 (13.9) 2 点 0 名 (0) 1 点 0 名 (0)

・研修の運営に関する評価 (5 段階回答: 5 点最高、1 点最低。括弧内は%)

5 点 19 名 (52.8) 4 点 11 名 (30.6) 3 点 6 名 (16.7) 2 点 0 名 (0) 1 点 0 名 (0)

・研修の時間に関する評価 (5 段階回答: 5 点最高、1 点最低。括弧内は%)

5 点 5 名 (13.9) 4 点 6 名 (16.7) 3 点 10 名 (27.8) 2 点 11 名 (30.6) 1 点 4 名 (11.1)

・総合満足度 (5 段階回答: 5 点最高、1 点最低。括弧内は%)

5 点 27 名 (75) 4 点 7 名 (19.4) 3 点 2 名 (5.6) 2 点 0 名 (0) 1 点 0 名 (0)

・特に災害時妊産婦救護について学習できた内容 (自由記載)

1. 災害医療についての知識 (CSCATTT、トリアージ、非常食、避難所救護所、連携、チームワーク、平時からの備え、研修の反復、情報伝達)
2. シミュレーションの重要性 (HUG)
3. 災害医療に対する心構え

・災害に備えた今後への抱負 (自由記載)

1. 災害医療へ向けて地域で活動していきたい
2. 自施設で今回の研修内容を報告する。自施設で災害時妊産婦救護の研修を開催する
4. このような災害研修に継続参加したい
5. 産婦人科医も災害医療に貢献できる
6. シミュレーションを通じた連携形成や活動への呼びかけを行っていきたい
7. 救急医など、産婦人科医以外が妊産婦救護研修に参加すべき

8. 実際の災害に活かせる防災訓練の実施に貢献

・災害時妊産婦救護研修の改善点 (自由記載)

1. 目的、目標をもっと絞ったほうがいいのではないか
2. 総論が多すぎる。より具体的な内容を盛り込む
3. 一日では不十分
4. HUG 以外が講義形式なので、改善が必要
5. HUG をもっと長く行う
6. もっと議論ができた方がいい
7. 全国的なネットワークを形成すべき
8. トリアージをテーマにしたセッションを設ける
9. CSCA のチームビルディングに関連する講義が必要
10. 物資がない状況での参加的救急対応例に関する内容がほしい
11. 避難所での授乳育児支援などの具体的な方法を盛り込む
12. 放射能災害に対する対応を盛り込む
13. 多職種とのコミュニケーションを図るシミュレーションを盛り込む
14. 災害時のトリアージの基本練習 (START 法) を盛り込む
15. 災害時の医療デバイス、ツールの取り扱いについて盛り込む
16. 災害時の臨牀的な知識についての内容を盛り込む
17. 災害時のリーダーシップについて学ぶ
18. 東日本大震災時の亜急性期、慢性期の PCAT、PCOT の活動を踏まえた内容を盛り込む
19. 一般医師が周産期を学ぶか、周産期医師が一般領域に踏み込むか、あまりに妊婦云々と言い過ぎると、DMAT などと別枠で動く (動かされる) ことにもなりかねない点が心配